

5年2組

 「畑」
～心を耕す～


野菜作りを通して育まれたもの

「1年生から3年生まで動物を育てていたから、今度は植物を育ててみたい」、「野菜を育てることで、苦手な野菜を克服したい」、「自分たちで育てた野菜を食べることで、心から『いただきます』と言えるような気がする」、「みんなで畑を守っていくことで、友達との仲が深まる気がする」という子どもたちの声からスタートした今年の総合的な学習の時間。次の文は、毎日欠かさず畑に通ったAさんの振り返りです。

動物とは違う命とのふれあいを感じられました。例えば、動物は、ご飯（水）が欲しかったら鳴く、または、自分から食べに行きますよね。しかし、植物（野菜、果物など）は、ご飯（水）がなくても、動けないし鳴けない。なので、放っておいたら勝手に枯れてしまいます。なので、毎日畑へ行きました。～略～ 友達を頼るという力がつきました。（前までは、すべて自分がやらなきゃと思っていた）～略～前は、やることをただやるロボットのような存在でした。しかし、もっと植物の立場になって考えて、人間としてできることをやっていきたいと思いました。また、もっと、計画的にやりたいです。～略～

野菜の命を感じ、植物を大切にしてきたAさんの心の育ち。植物の立場になり、自分にできることを考えて実行してきた行動力。友だちとの関りから、「友だちを頼ってもいいんだ」という新しい自分を見つけたAさん。畑を通して、自分を豊かにしていったAさんの姿を見ることができました。

また、次はBさんの振り返りです。

～略～ 何かを植えたり、水やりをしたり、温度調節のためのガードをしていたら、いつの間にか畑を優先するようになり、野菜のことを〇個ではなく〇匹と呼ぶようにもなりました。～略～ そしてある時思いました。「そういえば…この感じ…羊（よつば）の時と同じだ」と。重ね合わせると1日1日成長しているんですよ。野菜も動いてはないけど、なんか、なんか分かるんです。なんだろう。でもいつも思う。畑は面白いし、生きていて日々成長している僕たちのように。来年も畑ができたらいいなあ。～略～

毎日欠かさず畑に行ったBさんは、低学年の頃共に生活していた羊と野菜を重ねていました。Bさんの姿から、収穫ができない時も、朝と放課後畑に通い続ける子どもたちの気持ちが分かった気がします。子どもたちの心の中に、動物たちとの暮らしが生き続けていることが素敵だなと感じました。

また、Bさんは毎日通うことで見えてくる小さな変化（葉の形、茎の長さ、害虫など）に気づく力、畑で友だちと課題（計画、支柱、剪定、追肥など）を見つけ、協力して解決しようとする力を普段の生活にもつなげていました。

「めんどくさがりな僕の性格が少しめんどくさがり屋じゃなくなった」、「最悪の事態を予測し、後のことが考えられるようになった」など、畑を通して学んだことを、自分の生活に繋げて、自分の成長を感じているBさんの姿が素敵だなと感じました。畑～第2章～へと続く…!?



冬を越したラディッシュ。あまりの大きさにびっくりでした。調理実習でおいしくいただきました。



越冬キャベツの収穫。こんなに甘いキャベツを食べたのは初めてでした。結球する謎。寒さに耐えると甘くなる謎・・・



今年度の収穫に感謝しながら、来年度使うかもしれない人たちのために腐葉土を入れて耕しました。子どもたちは口をそろえて「さびしい」「ただの芝生だったなんて信じられない」と一言。自分たちで開拓した畑だからこそ感じている深い一言です。 ありがとう！ 畑！！

